

なんケア通信

第55回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました

開催日時：令和8年8月7日（金）18:00～19:00

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：27名（医療関係者16名、介護支援事業関係者7名、調剤薬局2名、
地域包括支援センター1名、一般参加1名）

『最期まで家で過ごしたい』

演題

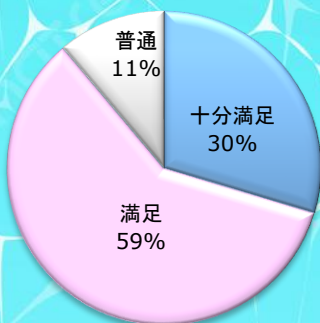
- ①「猫とワインと仲間たち～パートナーの覚悟を支える訪問看護～」
虹の街訪問看護ステーションいずみ がん看護専門看護師 福田 麻美様
- ②「最期まで家で過ごしたい～摂食・嚥下障害看護認定看護師の立場から」
飯田川デイサービスセンターわかば園 摂食・嚥下障害看護認定看護師 石黒 由希子様

福田様からは、事例を元に患者が最期まで家で過ごした取り組みについてお話していただきました。訪問看護時の様子や入院から自宅退院時のこと、患者とパートナーの思い、グリーフケアのこと。スタッフはその人らしく過ごせるよう支援もしますが、時には見守ることが必要です。石黒様からは在宅で行う食支援について、適した食形態や食品、ポジショニング等についてお話していただきました。最期まで口から食べ続けるために、本人やご家族の思いをうかがい、希望を叶えられるよう対応していくことが大切です。最期を迎える場面になった時、住み慣れた自宅で安心して過ごせるよう、本人と家族の思いを尊重し、医療・介護スタッフで連携して支援していきたいと思いました。

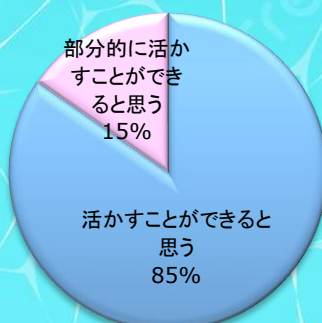
アンケート 結果

回収率：77.1%（アンケート配布：35名、回収：27名）

1.なんケアの会に参加して いかがでしたか？



2.今後、地域での活動に活かす ことができそうですか？



会場の様子



皆様からの ご意見・ご感想

自宅で最期まで過ごしたい思いは、家族の理解やDrや訪問看護師、訪問介護、福祉用具等々、多職種連携が必要となります。患者様・利用者様・ご家族が安心して過ごすことができるよう、日々自己研鑽をしなければなりません。

（介護支援事業所関係者）

在宅という場面でお2人が意思決定を尊重した関わりをしているのだと発表を聞いて感じた。

“家で最期まで...が当たり前の事になればいい”とても心に響きました。

（医療機関関係者）

在宅での食支援について、退院後の様子など入院時とはまた違った環境のため、知ることができて良かったです。

（医療機関関係者）

次回開催の お知らせ

開催日時：令和8年10月2日（金）18:00～19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」